

課題対応取組み報告書①

【共通】

名称	鶴見区地域包括支援センター
提出日	令和6年7月1日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	<input checked="" type="checkbox"/> 地域や専門職とのつながり等 <input type="checkbox"/> 認知症高齢者等の支援 <input type="checkbox"/> その他()	<input type="checkbox"/> 社会資源の創設(居場所づくり等) <input type="checkbox"/> 自立支援・介護予防・健康づくり等
活動テーマ	課題の早期発見・見守りのための小地域ケア会議(4年度より継続)	
地域ケア会議から 見えてきた課題	これまでに開催してきた地域ケア会議の対象者のなかで認知症の人の割合は85%と圧倒的に高かった。また、独居で身寄りがいない、家族が疎遠で頼れる人がいない、同居の家族自身が障がいなど、支援が必要にもかかわらず、キーパーソンが不在のケースも多かった。さらに、地域との関係も良くないために、見守りにまで支障をきたしているケースもあった。いずれのケースでも早期に課題に気づき、専門職が対象者との関係性を構築することができれば、課題が大きくなることを防げる可能性があった。しかし、見守りから課題発見・支援へつなぐという流れが、まだ地域全体に浸透できていない。	
対象	圏域内各地域のつなげ隊、ネットワーク委員、ふれあい員、民生委員、老人会、地域活動協議会等	
地域特性	担当圏域は鶴見区の中でも東端にある。圏域の北側は地下鉄があるが、それ以外の地域はバス移動が中心となっている。中央環状線や阪奈道路などの幹線道路や古川・寝屋川で分断されている地域がある。市営住宅の立ち並ぶ地域があり、中でも中央に巨大な市営住宅群のある茨田東地域は鶴見区で一番高齢化が進んでいる。その一方で、旧家屋の多い茨田北地域は家族同居の方も多く、高齢化率は一番低くなっている。古くからの地域には消防車や救急車が入れない路地も多く、商店も少ない。大型スーパーもなく、入院設備のある病院も療養型病院の一箇所のみとなっている。	
活動目標	①地域住民に向けた相談窓口の役割の周知 ・地域活動の再開に合わせて集まりに参加し、地域包括支援センター・ブランチの活動内容の周知を行う。 ・地域活動に参加していない人にも包括・ブランチの存在を知ってもらうため、「包括・ブランチ通信」を掲示板に貼り出す。 ②地域の支援関係者との定例会議 地域の関係者とともに、支援が必要な高齢者の情報や地域課題について定期的に情報共有し、課題解決に向けた話し合いの場を作る。	
活動内容 (具体的取組み)	①令和5年度は「包括・ブランチ通信」を4回発行し、チラシ9,500部、ポスター1,200部を配布した。包括、ブランチで個別に関わる対象者へ配付するだけでなく、地域での回覧や圏域内の福祉会館及び掲示板へ貼付した。また、圏域内5地域の地域福祉活動やネットワーク委員会の会議等に41回参加し、講師として認知症や高齢者虐待等についての話をするとともに、包括やブランチの役割と活動内容を伝えた。 ②当初予定をしていた、包括が把握している支援が必要な事例の紹介、地域課題についての話し合いは開催できなかったが、生活支援コーディネーターと共催で住民座談会を行い、地域住民が感じている課題の聞き取りをした。	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	①「包括・ブランチ通信」の定期的な発行が定着しており、圏域内の掲示板には常に包括とブランチの連絡先が掲載されている状況になっている。それ以外にも研修会や講座など知らせたい内容があるときには、掲示板を活用して地域住民へ周知できている。その結果、地域役員等の関係者からの相談件数が4年度91件から5年度134件へと増加した。 ②地域の課題についての意見交換の場を設定する予定で話を進めていたが、地域との都合が合わず、いずれの地域でも開催できなかった。意見交換の場は持てなかったが、地域ケア会議に出席してもらうことでその時点での課題を共有し、その経過を報告することで、課題解決に向けたプロセスを伝えることができていた。また、生活支援コーディネーターの取組みに協力することで、地域組織の役員からではなく、そこに住む住民からの課題抽出ができた。	
今後の課題	包括・ブランチの名前は知られるようになり、その役割の周知も少しずつできてきているのか、地域関係者からの相談件数が昨年よりも増加しているが、全体の2.3%にとどまっているため、今後も地域関係者からの相談が増えるようになっていきたい。 また、定例会議の開催を毎年計画しているが、実現ができていない。今後も顔の見える関係づくりをするともに、地域課題を共有し、その解決に向けた話し合いができる体制づくりが必要である。	
※以下は、区運営協議会事務局にて記入		
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和6年7月17日(水)	
専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	<input checked="" type="checkbox"/> 地域性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続性 <input checked="" type="checkbox"/> 浸透性 <input checked="" type="checkbox"/> 専門性 <input checked="" type="checkbox"/> 独自性	
評価できる項目(特性) についてのコメント	・令和4年度より継続して取り組み、地域では「包括・ブランチ通信」が定着してきており、相談件数も増加していることから、成果がみられる。 ・地域課題を地域住民と共有する機会を実現できるよう、取組みをすすめ、地域での活動をさらに発展させてほしい。	
*今後の取組み継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。		